長崎地本だより

発行所
自衛隊長崎地方協力本部
長崎市出島町2番25号
℡ 095-826-8844

第2回陸自見学ツアーを開催

長崎地本は、4月28日（土）、県立総合体育館を主会場に、自衛隊駐屯地内を見学し、募集対象者である高校生の男女121名が参加しました。

この見学ツアーは、3年ぶ目の開催で、第2回目の当日は、水陸機動団の創設記念行事が行われ、観閲行進や戦闘車両による戦闘訓練をはじめ、水陸両用車にのるリコプター乗ったり、そして自衛隊ヘリコプターに乗ったりと、盛りだくさんの内容でした。

また、参加者の皆様に対し、駐屯地内の職種や職域、充実した自衛隊生活環境を説明し、自衛官の魅力を肌で感じてもらうことを目的として、ツアー終了後、参加者から「陸上自衛隊に入ると、どんな職種に興味をもったか。」「会計隊の担当者から直に説明を受け、陸自の幅広い職種を感じることができました。」等の声が聞かれ、自衛官という職業についてしっかりと認識いただけたと感じました。

リクルーターの活躍が光った就職セミナー

長崎地本は、4月28日（土）、県立総合体育館を主会場に、自衛官・自衛隊補給本部・海上自衛隊第2海上幕僕監部・陸上自衛隊第43普通科連隊（背振山）の女性の清水沙羅2等空尉が、自衛官の目線で、教育隊の役割や活躍、教育隊内長の容姿を経験から説明しました。

また、空自第43警戒群

投稿

募集業務支援を経験して

私は、F2戦闘機操縦教育を控えたパイロットです。去る、4月13日から5月13日までの間、長崎地本に募集業務支援で参りました。入隊以来、飛行部隊を中心とした勤務で、今回のような広報活動の現場は初めてであり、多くの事を吸収するとともにこれまでの経験を地域の皆様にお伝えしたいという思いで勤務しました。この期間中において、長崎帆船まつり、就職説明会、相浦駐屯地設立記念行事、DEJIMA博に参加させていただき、大きく2つのことを学びました。

1つ目は、自衛官として地域の方々に期待されているということです。これまでは、自身の操縦技量を磨くことのみに焦点を置いており、地域の方との交流を持つことがありませんでしたが、直接お話を聞くことで、自衛官としての使命を再認識することが出来ました。

2つ目は、募集は地道な努力が必要であるということです。各イベントでは、多くの学生の方々が募集ブースに足を運んでくださり、ざっくばらんにお話をすることが出来ました。学生の方々の多くは「自衛隊は体力がないとやっていけない。」「訓練が多く、休日が少ない。」というイメージが先行していました。しかし、正しい情報を正しく伝えることで自衛隊の仕事に対する理解が得られるとともに、関心を持ってもらえたことから、広報官として親身に対応することが募集の第一歩となると感じました。

今回、臨時勤務を通して得られた経験を部隊に持ち帰り、還元するとともに今後の自衛隊生活の資としたいです。

（航空教育集団司令部付3空尉　平野　侑）

第47回ボランティア清掃

5月19日(土)、「長崎市ふくの会」主催の第47回ボランティア清掃活動が長崎市浦上地区（川口公園周辺）において実施されました。

当日は、風の強い曇り空の中、市側（県立大（シーボルト校）含む。）から約25名、自衛隊側は、長崎地本から小谷本部長を含め10名、長崎防衛支局（支局長：水野谷技官）から3名、護衛艦「こんごう」（艦長：廣中1海佐）から15名、護衛艦「あしがら」（艦長：川野1海佐）から16名、護衛艦「しまかぜ」（艦長：吉福2海佐）から13名、護衛艦「あきづき」（艦長：那須2海佐）から5名が参加しました。

午前9時前に川口公園広場に集合し、冒頭、長崎市役所北部環境センターの近藤氏から、清掃実施要領等の説明を受けたのち、参加した各グループの代表よりそれぞれ挨拶がなされました。

その後、2グループに別れ、約1時間余り川口公園周辺の道路周辺のゴミ拾いを実施して、環境美化に努めました。

今後とも、「県民とのかけはし」となれるよう引き続きボランティア清掃活動へ積極的に参加していきたいと

～来月のイベント情報～

7月下旬

春日基地夏祭り　　福岡県春日市：春日基地

7月29日（日）

とどろき名水まつり　高来支所前広場

みんなで一緒に学 BOUSAI in　島原半島　がまだすドーム

人事

【配置換え】

島原所長へ

大宅哲則3尉

佐世保センター長へ

前崎安貞1尉

【退官】

定年准尉　中島　巧一

以上5月27日付

お世話になりました

投稿

御霊よ安らかに、大村航空基地追悼式

第22航空群（群司令：岡田真典海将補）は、4月18日（水）大村航空基地内「殉空の碑」の前で平成30年度大村航空基地追悼式を行いました。

「殉空の碑」は、昭和40年7月の救難飛行艇US-2事故の翌年、同日に大村海軍航空隊の英霊とともに合祀して、建立されたものであり、平成21年12月の救難ヘリSH-60Jの航空事故等、大村航空基地開隊以来殉職された隊員12柱の御霊が祀られています。

追悼式は、暖かな春陽の中、殉職隊員のご遺族7名と来賓のご臨席の下、佐世保音楽隊の演奏を交えて殉職隊員のご冥福を祈り、厳かに実施されました。

この中で航空群司令は、「我が国の平和と安全を願い、国家・国民のため、全身全霊を捧げ海上防衛の任に邁進されてこられましたが、志半ばで職に殉ぜられましたことは誠に残念でなりません。我々は、これからも御霊のご遺志を受け継ぎ、刻々と変化する国内外の情勢に即応し、与えられた任務を整斉と遂行できるよう、様々な課題の克服に挑戦し、精強な第22航空群を維持してまいります。」と隊員を代表して追悼の辞を述べました。

（第22航空群広報室）